

シュッコンカスミソウ新品種の開花特性

第2報 2回摘芯9本仕立て栽培

江川 孝二・小林 祐一・浅沼 顕

(福島県農業試験場会津支場)

Characteristics of Flowering on New Varieties of *Gypsophila Paniculata* L.

2. Effects of cut flower quality in the cultivation for 9 pieces of spray on flower production of twice pinching technique, in autumn

Koji EGAWA, Yuichi KOBAYASHI and Akira ASANUMA

(Aizu Branch, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station)

1 はじめに

福島県産のシュッコンカスミソウは、6月から11月までの夏秋出荷の作型を中心として、主に首都圏の花き市場に出荷され、その品質は特に高い評価を得ている。しかし、その主力産地は昭和村、田島町などの山間地域であり、高齢化が進み労働力の確保が困難な状況にある。

シュッコンカスミソウの夏秋切り栽培では、草丈やボリュームを確保する目的で、1回摘芯により株当たり3～4本に仕立てるのが一般的な方法である。しかし、ボリュームがあるということは、出荷時に老け花(咲き終えた小花)や葉そして蕾を着けない枝を取り除く調整作業により多くの時間と労力を必要とするマイナス要素にもなる。

そこでボリューム感はあるが、調整作業を軽減し、切り花本数を多くすることで収入面も確保することをねらいとした、夏秋切りの作型における「2回摘芯9本仕立て栽培」に関する試験を平成10年(1998年)～11年度に実施した。

2 試験方法

(1) 試験場所: 福島県大沼郡昭和村(標高: 630m)

(2) 土壌条件: 黒ボク土

(3) 区の構成

1) 供試品種: ①プリストル・フェアリー(対照), ②グラン, ③ニューフェイス(平成11年は①, ②のみ)

2) 2回摘芯の処理方法: ①草丈15cm到達時2回目摘芯, ②草丈30cm到達時2回目摘芯, ③無処理(1回摘芯のみ)

2回摘芯区では1回目の摘芯で3本仕立て, 2回目の摘芯で各茎の上位分枝3本仕立てで計9本仕立てにした。

(4) 耕種概要

1) 定植時期: 1998年7月1日

1999年7月5日

(購入セル苗を2.5号ポットに仮植し

て10日間育苗後, 定植前日に摘芯した。)

2) 栽培様式: ベッド幅 60cm, 通路幅 60cm, 株間45cm,

1回摘芯後3本仕立て

3) 施肥量(kg/a): N: 1.5, P₂O₅: 1.5, K₂O: 1.5, 堆肥 300

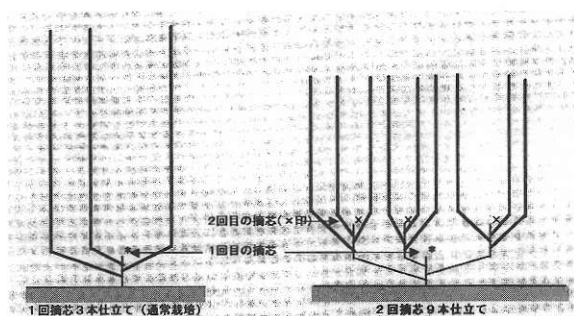


図1 1回摘芯3本仕立て栽培と2回摘芯9本仕立て栽培

表1 シュッコンカスミソウ2回摘芯9本仕立て法が切り花形質に及ぼす影響 (1998年)

品種名	試験区	切り花形質						
		切り花長 (cm)	切り花重 (g)	茎径 (mm)	節数 (節)	一段節長 (節)	一段節長 (cm)	しなり程度
プリストル・フェアリー	①	78.3	30.3	3.5	10.8	8.6	49.7	2.9
	②	73.3	25.9	3.1	9.7	7.8	47.7	2.7
	③	95.2	120.1	6.7	16.4	14.1	65.7	3.8
グラン	①	86.6	54.8	5.2	14.2	11.1	72.0	4.4
	②	73.6	38.1	4.5	11.1	8.7	56.2	3.4
	③	95.2	116.4	7.6	17.3	14.7	80.0	4.6
ニューフェイス	①	49.6	16.9	3.1	8.0	5.1	25.9	3.1
	②	48.1	14.9	2.9	6.9	4.2	23.7	3.1
	③	67.0	79.7	5.8	14.3	11.1	31.8	3.4

注. ①: 15cm時2回摘芯区, ②: 30cm時2回摘芯区, ③: 1回摘芯3本仕立て区。

一段節長: 切り口から最終の二分岐節までの長さ。

しなり程度: 1(軟)～3(普)～5(硬)の5段階評価。

表2 シュコンカスミソウ2回摘芯9本立て法が開花期に及ぼす影響 (1998年)

品種名	区	開 花 期					
		平均日 (月/日)	±標準偏差	始期 (月/日)	盛期 (月/日)	終期 (月/日)	開花率 (%)
ブリストル・ フェアリー	①	9/12	±2.3	9/7	9/11	9/19	94.4
	②	9/11	±2.8	9/7	9/12	9/16	97.2
	③	9/4	±3.2	8/30	9/4	9/9	97.2
ゴ ラ ン	①	9/20	±3.7	9/14	9/20	9/27	97.2
	②	9/14	±4.7	9/7	9/13	9/23	100.0
	③	9/2	±3.3	8/29	9/2	9/6	97.2
ニ ュ ー フェイス	①	9/4	±2.3	8/31	9/2	9/13	97.2
	②	9/1	±2.9	8/28	9/1	9/6	100.0
	③	9/27	±2.9	8/23	8/28	8/30	100.0

注. ①: 15cm時2回摘芯区, ②: 30cm時2回摘芯区, ③: 1回摘芯3本仕立て区
開花期: 始期 (10%開花), 盛期 (50%開花), 終期 (90%開花)

表3 2回摘芯9本仕立てにおける分枝位置の違いと開花日 (1999年)

品種名	試験区	側 枝 位 置								
		I			II			III		
		①	②	③	①	②	③	①	②	③
ブリストル・	①15cm時摘芯	9/11	9/12	9/13	9/8	9/10	9/12	9/9	9/11	9/15
フェアリー	②30cm時摘芯	9/7	9/8	9/9	9/6	9/8	9/10	9/6	9/8	9/9
ゴ ラ ン	①15cm時摘芯	9/15	9/17	9/18	9/15	9/17	9/18	9/15	9/16	9/16
	②30cm時摘芯	9/9	9/14	9/17	9/10	9/11	9/12	9/8	9/12	9/15

注. 上位の一次分枝からI, II, IIIとし, それぞれの分枝を各試験区の摘芯位置で2回目摘芯後, 発生した二次分枝を上位から①, ②, ③とした。(図2参照)

4) 栽培管理: 簡易雨除け栽培とし, ブリストル・フェアリーの慣行栽培法に準じた

3 試験結果及び考察

(1) 切り花品質

表1に, 平成10年度の2回摘芯9本仕立て法が切り花品質に及ぼす影響を示した。

切り花長では, 'ブリストル・フェアリー' と 'ゴラン' の2回摘芯区では, いずれも70cm以上あり, Mクラスの規格を満たしていた。しかし, 'ニューフェイス' はいずれの区でも短く夏秋切りの栽培には適さなかった。

また2回摘芯による切り花形質は, いずれの品種でも15cm時摘芯区が切り花長やボリュームで優っていた。

「しなり程度」は, 切り口10cm付近を握って垂直に立てて分枝先端がどうにか垂直を保っているものを3, 柳枝のように軟らかく垂れるものを1, 枝先までしっかり張っているものを5, その中間を2, 4として相対評価した。

その結果, 茎径も細いためか2回摘芯処理区の方がやや軟弱傾向がみとめられた。

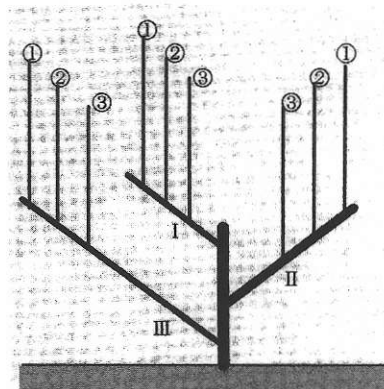


図2 2回摘芯による立茎(分枝)の位置

(2) 開花期

平成10年(1998年)の結果から, 平均開花期は1回摘芯区, 30時2回摘芯区, 15cm時2回摘芯区の順に早かった。また, 開花期の開花始期と終期の幅から2回摘芯区が1回摘芯区よりも開花期間が広がる傾向がみられた。(表2)開花がばらつくとも一斉収穫が難しくなり, 収穫時の作業効率を下げる可能性も生じる。

そこで, 平成11年は分枝ごとの開花を調査して分枝位置による開花の違いを 'ブリストル・フェアリー' と 'ゴラン' を用いて検討した。

調査位置は, 図2に示したように上位の一次分枝からI, II, IIIとし, それぞれ一次分枝を各試験区の摘芯条件位置で摘芯後, 発生した二次分枝を上位から①, ②, ③とした。

その結果は, 表3に示したように, 両品種, 両処理区ともに各一次分枝内で, 二次分枝は頂芽優勢により, 上位から①, ②, ③の順に開花し, 2~7日の開きが認められた。このことから, 2回摘芯区の開花幅の広がり, は, 一次分枝に由来するばらつきに加えた二次分枝間の頂芽優勢による影響であることが判った。

4 ま と め

(1) 2回摘芯9本仕立て栽培は, 'ブリストル・フェアリー' や 'ゴラン' を用いれば秋切り作型においても70cm級以上の採花が可能であり, 収穫本数も増加することから, M, S規格品出荷を前提としたカジュアルフラワー向けの仕立て方法として有効な栽培方法であると考えられた。

(2) 2回目の摘芯時期は, 花芽分化期直前の草丈15cm程度が目安と考えられた。

(3) 2回摘芯9本仕立て栽培は, 慣行法(1回摘芯)に比べて処理区内の開花期間が広がる傾向がみられ, 収穫時の作業性はやや劣ることになる。それは, 一次分枝に由来するバラツキに加えた二次分枝間の頂芽優勢による影響であった。